

明日はシラフで

飯田ゆかり

【登場人物】

勝田実枝	かつたみえ	46	商品管理部チーフ	既婚	子供なし
雉原由貴	きじはらゆき	45	営業事務部チーフ	独身	
仁村恭子	にむらきよこ	38	商品管理部 派遣社員	既婚	娘が一人
中園智彦	なかぞのともひこ	36	営業一課	独身	江波千里の恋人
刀根芳也	とねよしや	25	営業二課	独身	

舞台は暗転中。

仁村の声 たとえばこの前・・・実枝さんがお休みだった時ですけど。

実枝の声 ああ、水曜？

舞台中央、奥のドアから、勝田実枝と仁村恭子が話しながら入って来る。

北関東のビル内にある、キッチン用品を扱う会社の小会議室。

(ドア外は、上手側にトイレ。下手方面に給湯室や階段、エレベーターがある)

実枝スイッチを探り、蛍光灯をつける。明転。

舞台中央に長机が、客席側を空けてコの字形に置かれている。周りに椅子、ホワイトボードにキャビネット。

部屋の隅には段ボール箱が積まれ、半開封された一番上の箱からは可愛らしい色合いのキッチン用品(トンゲやスライサー等)が見えている。

キャビネットの上には電話とウェットティッシュ、コップに挿されたローズマリーの枝。キャビネットの扉は閉めてあるが、中にはマジックで名前の書かれた酒瓶が数本。

壁の時計は七時を回っている。その下、企業名が大きく印字されたカレンダーは十月。

二人の女はバッグを下げ帰り支度であるが、実枝はマグカップ二個、仁村はティーポットと布巾もそれぞれ手にしている。二人荷物を置き、机を整え拭いたりしながら、

仁村 ええ。ああよりによって実枝さんお休みの時に、って思っただんですよ・・・(キャビネットの上を見て) あ、ローズマリー。

実枝 森崎課長のお庭のみたい。

仁村 へえ・・・会社にわざわざ？

実枝 匂い消しのつもりじゃない。総務に怒られるから、気を遣ってるのよ。

実枝、中央の机の下手寄りの席に座る。

仁村 そんなにここで飲んでるんですか、営業さんたち？

実枝 一課と二課の年輩組がね。プラスチック製管理と経理が時々。

仁村 ほぼみんなじゃないですか。(鼻をくんくん) そう言われるとなんかお酒臭いような・・・ローズマリーただ挿してもねえ・・・(葉をちぎって香りを嗅いだりする)

実枝 このへんもうちよっとお店があればね。

仁村 (キャビネットを開けて)。わ、ポトルキープまでしてある・・・会議室のキャビネットにキープって哀しいなあ。

実枝 都内の会社じゃ社内バーとかあったりするのにな。

仁村 ま、それもどうかと思えますけど・・・(実枝の上手側隣、ほぼ舞台中央の席に座り)

会社としての体力づくりが出来てないのに、そういう体裁にばっかお金かけてダメになっ
ていくと「も多いらしいですよ。」

実枝 そうなの？

仁村 発言小町で読みました。(ティーポットの蓋を取って覗き) もっいいいな。

実枝 あー、いい香り。

仁村 (実枝のカップに注ぎつつ) レモンバウムがベースですから、飲みやすいと思います。
リラククス効果もありますし。

実枝 ハーブティーって、ティーバッグのしか飲んだことなくて・・・ありがと。

仁村 (自分のカップにも注ぎ) 市販のはねー、けっこう香料が強かったりするんですね。カ
ップに口つけただけで、むせそうなくらいクセが強かったり。

実枝 そうね・・・やさしい香り、これは。

仁村 ウチのは百パーセント天然ですから・・・さ、どうぞ。

実枝 もうちよっとおいとく。猫舌だから。

仁村 ……そうでしたか。

実枝 で・・・水曜、どうしたの？

仁村 そう、そうです水曜・・・保育園行く前から、今日ちよっとヤバいかもとは思ってたん
ですね。ちよっと咳も出てたし・・・そしたらやっぱり電話かかってきて、お熱出ちゃ
ったって。それで午前中で上がらせてもらうことになって。

実枝 うん。

仁村 でも実枝さんお休みだし、野々宮課長も朝から外出だったんです。ってことはつまり、
キジーさんに言わなきゃいけないじゃないですか。あーサイアク、と思っ。でももしよ
うがないですからね、言いましたキジーさんに。朝から兆候はあったんですけど、やっ
ぱりお熱出ちゃいました、すみません、上がらせて下さいって。そしたらちよっとだけ
私のこと見て、すぐ画面戻って「あー、わかりました」って。

実枝 ……うん。

仁村 スーパー感じ悪くないですか？最初の「あー」は、「またかよ」って意味ですよ。

実枝 ……そうなの？

仁村 そうですよ！それでとにかく、大急ぎで引き継ぎして、もう一度帰り際に「本当に突然
すいません、お先に失礼します」って言ったんです。

実枝 うん。

仁村 そしたらキジーさん、画面見たまま「あー、お疲れ様です」・・・またしても「あー」で
すよ？ただ「お疲れ様です」でいいじゃないですか。「あー」いらなくないですか？

実枝 なくても意味は通じるね。

仁村 この「あー」は「うるせーな」ですよ。キジーさん、「あー」ひとつでほんとマルチに使
い分けてくる。

実枝 (カップに口をつけ)・・・あちっ。

仁村 で、ロッカー行ったんですけど、机にメガネ置いてきちやっただの思い出して戻ったんで
すね。もう、バタバタしちゃって・・・そしたらキジーさんパソコン見たまま「さて今
日のデータどこまで入ってるのかなー」って・・・わかります、この意味？

実枝 ……今日のデータがどこまで入ってるのか知りたかったんじゃない？

仁村 私に言ってるんですよ。「朝の入荷処理ぐらいは当然済ませて帰ったんだろうな」って言うてるんですよ。

実枝 (ハーブティーを飲み)・・・あ、おいしい。

仁村 私、ただ入力だけの事務処理人間でいい、なんて思ってますよ。派遣だからって責任があるのはみなさんと同じ。

実枝 うん。

仁村 会社のために私で出来ることはできるだけやりたいと思いますし、一時間早く上がらせてもらうこともいつも申し訳ないと思ってます。

実枝 そういふ契約だもの。それに今日みたいに残ってもらうこともあるんだから。

仁村 (聞いていない)でも仕事を放り出して帰ったことなんて一度もないですよ?その時もちゃんと引き継ぎしてるし、エナちゃんの方にも大口未入荷のこととか伝えてから帰ってるんです。当たり前のことですけど。ましてや、キジーさんに迷惑かかるようなことは——

実枝 ねえ。雉原は、今日のデータごまで入ってるのかな、って呟いただけよね?別に仁村さんに対して——

仁村 実枝さん、ナイーブすぎますう。

実枝 ……

仁村 私がメガネ忘れたの知ってて、取りにくると思ってる、そこを狙って私に聞かせたんです。だから言っちゃったんです。はい、午前中の分は全て入ってますって。

実枝 そしたら??

仁村 そしたら驚いたふりなんかしちゃって、「あれ?帰ったんじゃないの?」って。キジーさんの席から私の席、丸見えだったのに、気づかないふりなんかしちゃって。だいたい私、商品管理なんですから。実枝さんの下なんですから。キジーさんの下じゃないですよ。

実枝 まあでも我々は、営業事務との協力が——

仁村 わからないんですよ。キジーさんには、子供が具合悪くなるってことが、どれくらい大変なことなのか。どれくらい心配なことなのか。

実枝 ……わからないと思っ。

仁村 ですよね。

実枝 私もわかってないと思っし。

仁村 (慌てて)いや、実枝さんは絶対あんな言い方しませんもの。それに主婦だからいろいろわかって下さるし。でもキジーさんは——

実枝 仁村さん、お疲れよね。

仁村 ……はい??

実枝 仕事はキッチリしてるし、机まわりもいつも片付いてるし、きれいなお弁当もオリジナルのハーブティーも作れる。仕事も家庭も一生懸命。

仁村 そんなー、実枝さんだって。

実枝 私は子供いないもの。小さいお子さんがいる人とは比べられないよ。

仁村 ですけど——

実枝 なのいろいろ任せちゃって・・・負担かかっているとっ。

仁村 いえそんな・・・そんな、負担なんて全然思っていないです。ただこの会社・・・ツッコミどころが満載でしょ。

実枝・・・そういうところあるかな。

仁村 なんとというか、システムティックじゃないんですよ。敢えて微妙に線を引かないとか、個人の裁量に任せたりとか・・・だから結局キジーさんとかも――

ノックの音。

返事を待たずにすぐドアが開き、チーズやクラッカーの袋を持った中園智彦が現れる。

中園 実枝さん！えー、仁村さんも。

実枝 ゾノくん。

中園 いらっしやっただんですね。

実枝 いらっしやっただけど？

中園の背後から、刀根芳也が顔を出す。赤ワインのボトルとワインオープナーを持っている。

中園 珍しいですね、ここで飲むなんて。

実枝 常連がないからね。

中園 同じこと考えた人がいたんだ。

仁村 ワイン・・・持ち込み？

刀根 実家から送ってきました。

仁村 へえ、お誕生日？

刀根 じゃないんですけど。

中園 プチセレブなんてこいつんち。

刀根 セレブじゃないです。

中園 だからプチセレブ。

刀根 プチプチくらいです。

中園 ちよーどいいや、一緒に飲みましょう。

実枝 あーごめん・・・ちよーどいま相談モードだから。

中園 相談！仁村さんのですか？

仁村 仕事のこと。

刀根 じゃあゾノさん、また今度に。

中園 仕事のことならなおさら。商品管理のお悩みは営業にもシェアしましょう。言いにくいことは、アルコールの力を借りて。

仁村 私たちお酒は――

中園 仁村さん、もう半年くらいでしたっけ？

仁村 三ヶ月ちょいだけど・・・

中園 まだそんなでしたか！なんか存在感あるから。
仁村 存在感？

中園 だって在庫関連いちばん詳しいじゃないか・・・入荷状況、データ見るより先に仁村さんに聞いちやうもん。

仁村 (悪い気はしない) データ見てよ。

実枝 (さらにフォロー) けっこう任せちゃってるから。

仁村 じゃあ・・・一緒に飲む？

実枝 え。

中園 そうしましょう。とねっち、ほら準備。

刀根 いいんでしょうか。

中園 いいに決まってるだろ。ほら、紙コップ出して。

中園と刀根、下手の机に陣取る。刀根、キャビネットから紙コップや紙皿を出し、チー
ズなどを並べる。

実枝 (小声で)・・・いいの？

仁村 (小声で) 私は大丈夫です。実枝さんも少し発散した方がいいですよ。

実枝・・・何を？

中園 キジーさんもすぐ来ますからねー。

実枝&仁村・・・え！

中園 声かけたんで・・・電話してたけど、終わったらすぐ行くって・・・マズいですか？

実枝 いや・・・

中園 あ・・・(嬉しそうに)もしかしてお悩みって、キジーさん関連？

仁村 違います。

中園 超きっぱり言いますね。

仁村 もっと包括的な問題です。(仁村のスマートフォンが鳴る)

中園 ホーカツ的・・・

仁村 あ、すみません・・・(電話に出て)もしも？え、ゆうちゃん？

仁村、ドアの外へ消える。実枝幾分ほっとしたように、

実枝 大丈夫かしら。今日、パパが早帰りで子供みてくれるって言ってたんだけど・・・

中園 ママがワインなんか飲んだらマズいですかね。

実枝 仁村さんお酒は・・・私も。

中園 飲まないんですって・・・何飲んでるんです？

実枝 ハーブティー。仁村さんオリジナルの。

中園 オリジナル？

実枝 仁村家のペランダで育ったハーブを、いろいろブレンドしたー

刀根 へー、すごいですね。

中園 けど仕事終わりにハーブティーって・・・テンション下がりませんか？

実枝 仕事終わりにテンション上げたい？

中園 上げた・・・くないですか。

刀根 実枝さん、チーズつまんで下さいね。すごく美味しいんですよこれ。
実枝 ありがとうございます。

中園 ハーブティーには合わないでしょ。ちょっとだけどうですかワイン？

実枝 遠慮しとく。お酒は当分控えてるの。

中園 つてことは飲まないわけじゃないんですね。カラダ・・・的なことですか？

実枝 でもないんだけどね。まあちょっと。

刀根 あ、俺冷蔵庫にグレープジュースあります。まだ開けてないんで。

実枝 ありがと、でもこれで。

中園 飲んだ方がいいんじゃないんですか・・・なあ、とねっち。

刀根 でもあまり無理におススメしても。

中園 おまえさ。

刀根 はい。

中園 野々宮さんどう思う？

刀根 ……野々宮課長ですか？ え、何ですいきなり。

中園 いいから。どう思う。

刀根 どうって・・・お忙しそうですけど。

中園 忙しいんだよあの人は。商品管理と営業事務と営業のバランスを取るのに、水準器の気泡みたいにあっちの角度こっちの角度ちよつとずつ変えて。

実枝 (思わず笑い) まあそんな感じね。

中園 そんな野々宮さんのオアシスが実枝さんですよ。実枝さんなら、なんでも穏やかに聞いてくれる、と思ってる・・・

実枝 そうなの？

中園 自覚ないんですか？実枝さんの方はたまったもんじゃないと思ってるかと。

実枝 そんな風には思わないけど・・・

中園 いや問題だなそれ。隠れ冷え性みたいじゃないすか。

刀根 あ、けっこう多いって聞きました。中年以降の女性に——(口ごもる)

中園 早くワイン開けろ。

刀根 はい。(中園の隣の最下手席にまわり、ワインにかかると)

中園 加えて女性陣はひと癖ある人が多い・・・これから来る激しめのK原さんとか、いま席外してる独特なN村さんとか。

実枝 (困った顔で) ちよつと。

中園 とにかく、そんなこんなでお疲れなんですから、今日はしょうもない、くだらない話でもして、ゆっくり飲みましょう。

実枝 ……うん、ま・・・なんか、ありがとうございます。

ドアが開き、バッグを持った雫原由貴が顔を出す。

雫原 おー、お待たせ。

中園 来た、激しい人。

雫原 まくらた私の悪口言ってたの。

中園 そんなにいつも言ってますよ・・・目の前にいない時だけ。
雫原 (中園の目を手で塞ぎ) 言ってみ!

中園、机を三回叩きタツプアウト。雫原手を離し、上手の机の席に座る。

実枝 お疲れ、キジ!

雫原 珍しいじゃない。帰ったのかと思ってた。

中園 仁村さんと飲んでたみたいです。だから一緒にって。

雫原 ああ、階段のところで電話してた。あの人も珍しいね遅くまで。

実枝 うん・・・今日は大丈夫って言ってただけど、おうちから呼び出しあったみたい。

雫原 あら残念。とねっちを赤ワインで血祭りにすると「見られるのにね!」。

実枝 血祭り?

刀根 (ワインを開け、紙コップに注ぐ) さーどうぞどうぞ。

雫原 サンキュ。

実枝 ねえ血祭りってなに。

雫原 ゾノがさっき言ったのよ。赤ワインでとねっちを――

中園 いや、こいつの本性を暴こうと思ってたんですよ。でも実枝さん癒しの会に変更です。

雫原 へえ、癒されたいんだ?

実枝 ー、最初の方が面白そうだけど・・・刀根くんの本性って。

刀根 僕は、仮面を被ってるらしいんです。

中園 その通りだ。おまえも無意識に、隠れ冷え性的な仮面男なんだ。

雫原 それを剥がしてやるんだって・・・ねえ実枝さん何飲んでるの? バブ? バスクリン?

実枝 バスクリン飲まないでしょ。ハーブティーよ。

中園 仁村さんのお手製だそうです。

雫原 ああー、ほいねえ。

刀根 実枝さんすいません、僕らだけ。

実枝 ぜーんぜん。いいから早く飲みなよ。

雫原 じゃあ、とねっち、ゴチになります! かんぱーい! (飲んで) あ、美味しい。まろやかだねー。

刀根 あ、よかった。

中園 うん、うまい。田舎のおばあちゃんちの干し草の上で仔羊がたわむれてるみたいな香りがする。

実枝 おばあさま、牧場とかやってみるの?

中園 イメージですイメージ。

仁村が戻ってくる。